

Gondラで通勤。勤務場所の標高は 1680m・・・この夏、私が1週間に2～3日働くアルバイトの勤務場所である。正確に言えば、常にこの場所ではなく 1680m地点は2～3日に一回くらいで、そうでない日は 1400m地点。スキーで行ったことがある人や白馬・唐松・五竜・鹿島槍といった後立山縦走などの経験がある方はイメージできると思うが、1400mは八方ゴンドラ山頂駅の「うさぎ平」の標高であり、その次に乗るアルペンウッドリフトの起点の高さでもある。1680mはそのリフトの山頂駅の標高で、昨夏まではゴンドラ勤務だったが、なぜかこの夏は初めて、このリフトの勤務になった。

当然ながら平地に比べれば涼しい。6月の梅雨日など、寒いと言って一時的にストーブを焚くこともある。それにしてもこの夏は8月初めまで、強烈に暑かった。7月は、「白馬も避暑地といえないぞ」と言われるくらいの猛暑で、平地の気温は 34 度になったこともある。(8月3～5日に蓮華温泉から鉱山道経由で雪倉・朝日岳を縦走したが、重さと暑さで熱中症になりかけたくらいだった。夏山であんなに暑い経験は初めてだった。)

アルペン勤務でわかったことだが、八方尾根に来る人は、圧倒的に高山植物の花がお目当てであることだ。女性スタッフが池までに咲いている花をときどき撮影に出かけて写真集にする。パソコン高級機で高品質印刷、A4サイズ2枚で 200 円だが、自分が見た花の名前を知りたい、確認したいということで結構売れるのだ(登山者はほとんど一目散に乗車するだけ)。もちろん八方池とそこに映る白馬三山などの光景を見たさに往復 2900 円かけて登ってくる。梅雨の雨の日は数十人という日もあれば、好天の土日は数千人という日もある。7月は学校登山もあり、毎日団体ツアーが何組もやってくる。個人的感覚では、唐松岳ピストンや縦走などの登山者は 2%くらいで、7割くらいが八方池まで、3割ほどがアルペンリフトの次のグラートリフトを降りた八方池山荘あたりまで。なかには車椅子のお客さんもある。幼児や高齢者など、乗り降りが不安な場合は乗降時に減速する。

最近、女性の単独登山者が増えてきている。唐松小屋泊まりピストンが多いと思うが、テント泊や縦走と思われる人も一目でわかる。意外と多いのは転倒によるけが人である。マスコミでは死亡者や行方不明者は報道されるが、負傷者は記事にはならない。ドクターヘリで救助されても、骨折して救助隊が車椅子で

おろしてもニュースにはならない。(車椅子は、ゴンドラ・リフトのいずれの駅の上下にも常時保管してある)

それでも、人は山をめざす。

8/17 記



1680m地点 アルペンリフト山頂駅横の
鎌池湿原に咲くニコウキスガと白馬三山
(7月11日撮影)

追記

今年の猛暑で、紅葉はどうかという情報もあります。